

令和6年度 学校評価書

学校名（東温市立北吉井小学校）

令和7年2月3日

- 1 学校の教育目標 『元気で 一生懸命な やさしい北吉井っ子の育成（ふるさとを愛し「誰もが明るく元気に過ごし続ける力」「幸せや生きがいを感じながら生きる力」の育成）』
- 2 経営の基本方針 子供の成長 安全・安心を中核に据え 「家庭・地域との連携・協働」を推進しながら（1）元気な子を育てる(自律)（2）一生懸命な子を育てる(勤勉)（3）やさしい子を育てる(協力) を育てる。

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			○考察及び●改善方策	学校関係者評価委員より
	太字:重点項目		教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	小さな変化やトラブルを見逃さず、受容的な態度で児童に対応し、組織的に未然防止及び課題の早期発見・早期解決に努めている。	3.8	3.5	3.2	○ 児童・保護者の評価値は昨年度とほぼ同等であった。「いじめ・不登校等への対応」については、生活アンケートや児童との関わりから悩み等を把握し、いじめの早期発見対応に努めている。また、いじめを認知した場合は、早期解決に向けて組織的・継続的に対応を行ってきた。保護者からは「先生に相談すると真剣に話を聞き、丁寧に対応してくれる」「担任が児童一人一人のことをよく見てくれている」といった肯定的なコメントが寄せられており、学校の生徒指導対応に一定の理解が得られている。 ● 挨拶については、教職員と保護者の評価値が低い。保護者から「挨拶をしても返ってこないことがある」「挨拶する子としない子がいる」というコメントが寄せられた。教職員も挨拶に課題があると捉えており、今後、具体的な方策を考え、進んで挨拶をする態度を育てていく必要がある。	【総評】八つの領域の全ての評価項目において3以上となっており、総じて高い評価と言える。特に、教職員の評価が大きく向上しているのが良い傾向である。教職員が学校運営への参画や教育活動の工夫・改善に積極的に取り組んできたことに対する自信の表れではないだろうか。 【生徒指導】いじめ・不登校については、相談体制の充実を図り、迅速な対応ができています。今後もチーム体制を維持して対応をお願いしたい。挨拶の課題は、コロナ禍で声を出さないという指導の影響も考えられる。今後は、笑顔で挨拶したりコミュニケーションを取ったりすることが安心してできるような環境づくりも必要ではないか。
	基本的な生活習慣の定着	心を込めた挨拶や返事、会釈の定着を図っている。	3.2	3.4	3.1		
	相談体制の充実	一人一人の児童の変化を見逃さず、児童の情報を共有し、児童理解に基づく教育相談や保護者参加のケース会議等をチームで対応している。	3.9	3.3	3.2		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	一人一人に出番がある学習や活動の場を工夫し、タブレットアプリを活用するなどして、きめ細かな指導を行っている。	3.8	3.3	3.2	○ 児童・保護者の評価値は昨年に比べ、わずかに下がっているが、教職員はかなり高くなった。昨年度から「学び合い・振り返りのある学習」を重点項目として、指導の工夫・改善に努めてきた。本年度も問いかけの学習課題設定と、考えや分からないことを聴き合ったり、理由を聴きながら考えを練り合ったりする「いわがらタイム」を設定し、主体的・対話的で深い学びに向かう授業の実践に努めた。全校体制で継続的に取り組んだことで、児童の思考力・判断力・表現力の育ちが成果として表れてきている。 ● 家庭学習の習慣について課題意識を持っている保護者・教職員がいる。家庭においても児童がしっかりと学習し学力を伸ばしていけるよう、家庭での学習習慣の定着と自主学習等の充実を図りたい。	【確かな学力】「いわがらタイム」の取組は、深い学びにつながるだろう。ただし基礎・基本と深い学びはセットと捉えて育ててほしい。学校は、認知能力だけでなく、非認知能力の大切さも保護者に発信するよう努めてもらいたい。 【豊かな心、健やかな体を育てる教育】様々な地域人材と関わり、体験的に学ぶ機会の充実を図ることができている。学校は、運動の楽しさに触れる機会の保障に努めてもらいたい。
	家庭学習の充実	宿題や自主学習の内容や取り組み方について全校の共通理解の基、保護者との協力等により、家庭学習の習慣が定着するよう努めている。	3.7	3.3	3.0		
	学び合い・振り返りのある学習	課題を持ち、自分の考えを伝えたり、分からないことを尋ねたりしながら学び合い・振り返りのある学習を行うように努めている。	4.0	3.5	3.1		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳の時間を中心に、全教育活動を通して思いやり・感謝の心を育てる道徳教育の充実を努めている。	3.7	3.7	3.3	○ 全項目で、特に児童の評価値が高い。また、保護者の評価値は昨年と同等であるが、教職員は大幅に高くなった。年度始めから新型コロナウイルス感染症による行動制限がなく、異学年集団活動や校外での見学、ゲストティーチャーを招いて学ぶといった体験活動を充実させることができた。保護者から「他学年の児童との交流で人間関係が広がってうれしい」「体験学習ができるようになり、いろいろな気付きが得られてありがたい」といった声も寄せられている。また、「元気モリモリ貯金」の取組が定着しており、学校と家庭が連携して児童の基本的な生活習慣を身に付けさせることにつながっている。さらに、本校のこれまでの健康教育の充実が認められ、令和6年度学校保健文部科学大臣賞を受賞したことも大きな成果と言える。 ● 日頃から運動する子としない子の二極化や新体力テストの結果から見えてくる課題の解決に向け、運動の楽しさを味わわせる体育科指導やえひめITスタジアムへの取組など、全校体制で推進していきたい。	【豊かな心、健やかな体】様々な地域人材と関わり、体験的に学ぶ機会の充実を図ることができている。学校は、運動の楽しさに触れる機会の保障に努めてもらいたい。
	仲間づくり・集団づくり	自分の大切さとともに他の人の大切さを認めながら、仲間意識に支えられ、互いに協力のできる集団の育成に努めている。	3.9	3.6	3.4		
	健康づくり・体力づくり	家庭と連携し、「早寝・早起き・朝ご飯」の意識付けと健康・安全意識の向上に努めている。	3.9	3.4	3.4		
	体験活動の充実	自然体験・社会体験活動を充実させ、自立心の育成を図るために行事を工夫して行っている。	3.7	3.6	3.4		
特別支援教育	特別支援教育の充実	校内支援体制を整備し、専門家や校内スタッフの情報を参考に、一人一人のニーズに応じた支援を行っている。	4.0	3.2	3.1	○ 本校には通級指導教室が二つあり、自校通級の良さである学級担任と通級指導担当者とのチーム支援が充実している。通級指導教室を利用している児童が、学習や生活上の困難を解消するとともに、全教職員が特別支援教育への理解を深め、一人一人の安心感や自己肯定感を高めることにつながっている。 ○ 東温市特別支援教育アドバイザーや専門家を招いての校内研修により、合理的配慮等について教職員の研修を深めることができ、指導に生かすことができた。	【特別支援教育】通級指導教室があることで、利用している児童が丁寧に配慮してもらえ、保護者の安心感につながっている。支援の必要な児童への合理的配慮は、全ての児童にとっても良い支援となるため、その充実を図ってほしい。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域と連携して、登下校時の安全確保に努め、児童の安全への意識を高めるよう配慮している。	4.0	3.6	3.6	○ 登下校の安全確保については、三者の評価が高い。保護者コメントでは、「先生や地域の方々の見守りによって安全に登下校ができてありがたい」という声が寄せられており、児童・保護者の安心感につながっているようである。また、災害時の保護者引き渡し訓練や様々なことを想定した避難訓練を実施し、今後起こることが予想されている南海トラフ大地震への対応力を高めることに努めた。 ● 登下校時の見守り活動については、教職員の負担を心配する声が地域・保護者から上がっている。地域・保護者に登下校時の見守りの協力をより一層いただけるような働き掛けが必要である。	【安全・安心な教育環境】登下校の安全確保については、地域の方や教職員の見守りのおかげで安全確保ができています。今後は、地域の方がより見守り活動に参加しやすい仕組みづくりを考えていくと良い。
	防災教育の充実	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	4.0	3.7	3.3		
	食の安全と食育の充実	給食の安全を確保すると共に、食育を推進している。	3.5	3.4	3.3		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとCSの推進	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされ、「地域とともにある学校」の実現に努めている。	4.0	3.5	3.4	○ 地域コーディネーターに週1回（1時間）来校いただき、職員室で職務に当たってもらった。このことにより、地域連携教育主任だけでなく、各学年の担当者の連携がより円滑となり、地域人材を生かした授業の展開や地域の教育資源を生かした学びの推進に大変役立ち、教職員の負担軽減にもつながった。 ○ 月1回、松山聖陵高校の生徒が来校し、学習補助の場面を設定して交流した。児童が安心して活動する場や教員養成の一助、教職員の負担軽減等、双方にとって意味のある交流事業となった。	【家庭・地域との連携】地域コーディネーターの貢献により、教職員の負担軽減を図りながら、地域人材を生かすことができています。
	情報の共有化	児童の様子について積極的に学校の様子を伝えたり、学校だよりやホームページ等で学校の情報を積極的に発信したりして情報の共有化に努めている。	3.9	3.3	3.4		
特色ある学校づくり	P T Aの積極的な学校運営への参画	P T A活動への主体的な参画を通して、教育活動の充実や効率化などを推進している。	3.4	3.4	3.4	○ P T Aが主体となった「P T A学校支援事業」が3年目となった。様々な行事や校外活動等で保護者の積極的な協力をいただき、大変助かっている。保護者も貢献感を持つとともに、参観日以外でも我が子の様子が見られるので好評である。	【特色ある学校づくり】P T A学校支援事業は、昨年度の参加人数をはるかに超え、活性化している。学校と保護者がより連携・協働しながらP T A活動の充実を図ってほしい。
施設・設備の充実	I C Tの有効活用	I C Tを活用して、授業や校務の効率化を図っている。	3.5	3.7	3.4	○ 今年度、配置された学校補助員が積極的に学校の設備・設備の修繕を行ったことで、備品や施設の安全確保と活用が進んだ。 ● タブレットの不具合が頻発し、保護者からの問い合わせやスペックアップを求める声への対応に苦慮している。市教委とも連携しながら今できる対応を適切に行っていきたい。	【施設・設備の充実】1人1台端末の不具合への対応は、教職員の負担になっている。今後、タブレットが更新されるまで、市教委と連携し、適切な対応をしながら、有効活用に努めてほしい。
	施設・設備の安全管理	清掃活動や安全点検等において潜在的危険個所の早期発見と除去に努めている。	4.0	3.7	3.4		